

# 埋蔵文化財試掘調査報告 33

令和 2 年度 香川県内遺跡発掘調査

2022. 1

香川県教育委員会

# 例 言

- 1 本書は香川県教育委員会が令和2年度国庫補助事業として実施した香川県内遺跡発掘調査事業のうち、開発計画との調整に係る埋蔵文化財の範囲確認等調査の概要について、令和2年度国庫補助事業として実施している香川県内遺跡発掘調査事業において作成したものである。
- 2 調査対象は、国道バイパス等建設、県事業、県営農政事業である。
- 3 調査は本県教育委員会が調査主体となり、県埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 本書の編集は県埋蔵文化財センターが担当した。
- 5 本書の挿図の一部には国土地理院2万5千分の1地形図を使用した。
- 6 調査の実施にあたっては、国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所、県土木部道路課、中讃土木事務所、県農政水産部農村整備課・土地改良課、中讃土地改良事務所、東讃土地改良事務所、県教育委員会高校教育課、県内各市町教育委員会、その他地元関係各位の協力を得た。

# 目 次

第1章	令和2年度香川県内遺跡発掘調査事業の実施に至る経緯	1
第2章	国道バイパス等建設予定地内の調査	
(1)	はじめに	4
(2)	調査の概要	4
	国道11号大内白鳥バイパス建設（1工区）	4
	国道11号大内白鳥バイパス建設（4工区）	13
	国道11号豊中観音寺拡幅	20
	国道438号（飯山工区・綾歌工区）道路整備	23
第3章	県事業予定地内の調査	
(1)	はじめに	35
(2)	調査の概要	35
	笠田高校校舎改築	35
第4章	県営農政事業予定地内の調査	
(1)	はじめに	38
(2)	調査の概要	38
	中山間地域総合整備（まんのう地区）	38
	経営体育成基盤整備（羽床下地区）	43
	経営体育成基盤整備（田中北部地区）	45

## 第1章 令和2年度香川県内遺跡発掘調査事業の実施に至る経緯

香川県教育委員会（以下、「県教委」という）は、国民共有の貴重な文化遺産である埋蔵文化財の適切な保護を図るため、昭和58年以来、33回にわたり国庫補助事業として遺跡詳細分布調査および遺跡発掘調査を実施してきた。

昭和61年度から開始した遺跡詳細分布調査は、昭和63年以降、県道建設事業や県営ほ場整備事業を調査対象に加え、平成5年以降ではさらにその他の県事業も加えて、国・県主体の開発事業に伴う、適切な埋蔵文化財の把握と保護に努めてきた。平成7年度には整備が急がれていた四国横断自動車道（津田－引田間）建設予定地内の分布調査を実施し、広大な大型事業にも随時対応を図っている。

さらに、平成8年度には、県内全域の埋蔵文化財を対象として、種々の開発事業に対する事前の調整を図ることを主眼に置き、事業名を「香川県内遺跡発掘調査事業」に変更し、継続して分布・試掘調査を中心に事業を遂行している。

令和2年度は従前の調査方法を踏襲し、国道事業、県事業、及び県営農政事業予定地を対象として事業を実施した。事業の実施概要としては、前年度末に国・県等の事業者到来3年間（令和2～4年度）の事業計画を照会し、回答のあった事業に対し、遺跡地図と照合した結果を表1のとおり回答した。その後、回答結果に基づいて関係各課と協議を重ねながら、必要なものについて分布・試掘調査等を実施し、事業実施前に埋蔵文化財の保護に係る必要な協議資料を得てきたものである。

事業実施機関は香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課で、令和2年度の体制は下記のとおりである。なお、香川県埋蔵文化財センターが関係各課との協議、分布・試掘調査等を担当した。

### 香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課

総括	課長	渡邊 智子
	副課長	愛染 伊知朗
文化財 グループ	課長補佐	古野 徳久
	主任文化財専門員	松本 和彦
	文化財専門員	渡邊 誠
	技師	益崎 卓己

### 香川県埋蔵文化財センター

総括	所長	西岡 達哉
	次長兼総務課長	樋口 和幸
調査課	課長	佐藤 竜馬
	主任文化財専門員	藏本 晋司
	文化財専門員	森下 友子
	主任技師	竹内 裕貴

年度	回答						A～Dの合計
	史A	A	B	C	D	E・不明	
平成21年度	9	46	76	24	385	0	540
平成22年度	3	33	50	33	348	0	467
平成23年度	10	36	91	45	314	0	496
平成24年度	9	42	96	30	411	0	588
平成25年度	5	47	101	35	460	0	648
平成26年度	9	46	106	40	534	0	735
平成27年度	9	44	103	36	538	0	730
平成28年度	6	34	68	14	581	13(不明)	703
平成29年度	7	33	56	25	552	0	673
平成30年度	8	27	128	72	468	0	703
令和元年度	5	38	103	61	700	0	907
令和2年度	10	45	168	120	774	3(E)	1117

(参考：回答内容)

区分	埋蔵文化財包蔵状況及びその取扱い要領
史A	事業予定地は史跡・名勝・天然記念物指定地内に含まれるため、現状変更許可が必要です。ついては、事前にその取扱いについて当課と協議願います。
A	事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が所在しているため、事業実施前のできるだけ早い段階で、その取扱いについて当課と協議願います。
B	事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地と近接しているため、事前に当課が当該地の分布調査等を実施しますのでご協力ください。
C	事業予定地及びその周辺に埋蔵文化財包蔵地は所在しませんが、事業面積が広大であるため、事前に当課が当該地の分布調査等を実施しますのでご協力ください。
D	事業予定地及びその周辺に埋蔵文化財包蔵地は所在しませんが、工事実施中に出土品の出土等により新たに遺跡と認められるものを発見した場合には、文化財保護法第97条第1項の規定による遺跡発見通知を当該市町教育委員会に提出するとともに、その取扱いについて当課と協議願います。
E	事業予定地に日本遺産の構成要素が所在するため、事前に事業予定地の市町教育委員会に連絡し、その取扱いについて協議願います。

表1 工事件数と埋蔵文化財取扱いの推移



図1 調査地位位置図(番号は表2に対応する)

原因	番号	原因	所在地	分布調査	調査期間	面積 (㎡)	道路名	種別	確認内容	時代	保護措置	
国道バイパス等建設	1	国道11号大内白鳥バイパス建設(1工区)	東かがわ市白鳥	-	令和2年5月19・20日	44.2	城東道路・城東東道路	集落跡	包蔵地確認	古墳	記録保存予定	
			東かがわ市伊予屋・端来	令和2年6月8・9日	184.1	赤城古墳群	古墳	包蔵地確認	古墳	記録保存予定		
			東かがわ市端来	令和2年11月30日	114.5	-	-	-	-	包蔵地確認されず	-	-
	2	国道11号大内白鳥バイパス建設(4工区)	東かがわ市中山	-	令和2年4月24日	38.0	中山北道路	集落跡	包蔵地確認	古墳～中世	包蔵地確認	記録保存予定
			東かがわ市中山	-	令和2年12月4日	50.2	中山北道路	集落跡	包蔵地確認	古墳～中世	包蔵地確認	記録保存予定
			東かがわ市小砂	-	令和2年9月16～18日	94.2	小砂大木道路	集落跡	弥生	包蔵地確認	弥生	記録保存予定
	3	国道11号豊中観音寺拉幅整備	観音寺市本大町	-	令和2年7月20～22・27日	104.8	樋ノ口道路	集落跡	弥生～中世	包蔵地確認	弥生～中世	記録保存予定
			丸亀市飯山町上	-	令和2年4月15日	61.2	阿波田道路	集落跡	弥生～中世	包蔵地確認	弥生～中世	記録保存予定
			丸亀市飯山町上	-	令和2年10月12・13・15・16日	207.8	沖邊路・岡邊田道路・岡邊田田道路	集落跡	弥生～中世	包蔵地確認	弥生～中世	記録保存予定
4	国道438号(飯山工区)道路整備	丸亀市飯山町上	-	令和3年1月28・29日	59.2	沖南道路	集落跡	弥生～中世	包蔵地確認	弥生～中世	記録保存予定	
		丸亀市飯山町上	-	令和2年10月13・14日	49.5	岡田東下土居道路	集落跡	古墳～古代	包蔵地確認	古墳～古代	記録保存予定	
		丸亀市飯山町上	-	令和2年11月6日	35.5	釜田竹田道路	集落跡	弥生	包蔵地確認	弥生	記録保存予定	
5	国道438号(綾歌工区)道路整備	丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年11月22～24・27日	258.0	-	-	-	包蔵地確認されず	-	-	
		丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年12月8～10日	93.3	佐文中筋道路	集落跡	包蔵地確認	古墳～中世	包蔵地確認	設計変更による現状保存	
		丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年11月25・26日	62.3	-	-	-	包蔵地確認されず	-	-	
6	国道438号(綾歌工区)道路整備	丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年11月12・13日	115.0	-	-	-	包蔵地確認されず	-	-	
		丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年12月16・17日	-	-	-	-	-	-	-	
		丸亀市綾歌町岡田東	-	令和2年12月16・17日	-	-	-	-	-	-	-	
県事業	中山間地域総合整備(まんのう地区)	仲多度郡まんのう町佐文	令和2年1月28・29日	-	-	-	-	-	-	-	-	
		綾歌郡綾田町羽床下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		木田郡三本町田中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県営農政事業	経営体育成基盤整備(田中北地区)	田中北地区	令和2年12月28日	-	-	-	-	-	-	-	-	
		田中北地区	令和2年12月28日	-	-	-	-	-	-	-	-	
		田中北地区	令和2年12月28日	-	-	-	-	-	-	-	-	

表2 香川県内遺跡発掘調査総括表

## 第2章 国道バイパス等建設予定地内の調査

### (1) はじめに

国道バイパス建設及び拡幅工事に伴う埋蔵文化財の保護については、これまで県教育委員会と国土交通省四国地方整備局香川河川国道事務所及び県土木部道路課（各土木事務所含む）との間で適宜協議を行い、その適切な保護に努めてきた。令和2年度には国道11号大内白鳥バイパス建設、国道11号豊中観音寺拡幅、国道438号道路整備について本格的な協議を行い、東かがわ市、観音寺市、丸亀市で試掘調査を実施した。

### (2) 調査の概要

#### 国道11号大内白鳥バイパス建設

##### (1工区)

##### 対象地の状況

今回の対象地は4地区（A～D地区）である。A地区は東かがわ市白鳥の小丘陵間の扇状地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「城泉遺跡」と「城泉東遺跡」に隣接する。B地区は東かがわ市帰来の丘陵北斜面に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地「田高田北遺跡」に隣接し、「赤坂古墳



図2 調査地位置図

国土地理院地形図 1/25,000の一部に加筆

群」の範囲の一部を含む。C地区は東かがわ市帰来の平野と低丘陵に位置する。D地区は東かがわ市伊座の平野と丘陵に位置する。

##### 調査の結果

##### A地区

協議範囲は宅地跡である。範囲の中央を南北に走る市道の西方に1・2トレンチ、東方に3～5トレンチを設定した。2・3トレンチから1トレンチ南東部にかけて南から西に向かう溝状遺構を、1トレンチの北西部で東西方向の

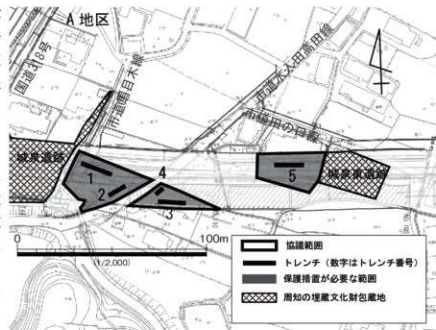


図3 トレンチ配置と取り扱い図

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	1.3 × 13.0	溝状遺構 2条	土師器片少量	現地表下 0.7 m まで造成土・旧表土が堆積する。その下には上から順に黄色～灰褐色の小礫混じりシルト (厚さ 0.15～0.3 m)、暗褐色小礫混じり砂質シルト (厚さ 0.2～0.3 m、土師器片少量含む)、さらにその下に西部では黄色粘土、東部では灰色小礫混じり細砂 (溝状地堆積物) が堆積する。両土層上面で 2 条の溝状遺構を検出した。暗褐色小礫混じり砂質シルトは遺構埋土である。
2	1.0 × 10.0	溝状遺構 1条	土師器片少量	現地表下 0.5～0.7 m まで造成土・旧表土が堆積する。1 トレンチ同様、黄色～灰褐色小礫混じりシルト (厚さ 0.15～0.5 m) の下に 1 トレンチから連続する溝状遺構の埋土と考えられる暗褐色小礫混じり砂質シルト (厚さ 0.3 m、土師器片少量含む)、その下には 1 トレンチ東部と同じく灰色小礫混じり細砂が堆積する。
3	1.0 × 7.2	溝状遺構 1条	土師器片少量	現地表下 0.4 m まで造成土・旧表土が堆積する。その下には灰色または黄色細砂 (厚さ 0.6 m)、暗褐色小礫混じり細砂 (厚さ 0.3 m、土師器片少量含む)。1・2 トレンチから連続する溝状遺構の埋土) が堆積する。さらにその下には 1・2 トレンチと同じく灰色小礫混じり細砂が堆積する。
4	1.0 × 2.4	なし	なし	現地表下 0.5 m まで造成土・旧表土が堆積する。その下には灰色小礫混じり細砂、さらにその下に灰褐色小礫混じり細砂が厚さ 1 m 以上堆積する。1～3 トレンチで検出した遺物を含む暗褐色小礫混じり細砂層は検出されなかった。
5	1.0 × 7.7	溝状遺構 1条	土師器片少量	現地表下 0.2～0.3 m まで旧表土が堆積する。その下には灰黄色小礫混じり細砂、暗褐色小礫混じり細砂 (両層は土師器片少量含む)、さらにその下には西部では灰黄色小礫混じり細砂 (炭化物粒アロク含む)、東部では黄色小礫混じり砂質土が堆積する。灰黄色小礫混じり細砂上面で溝状遺構を検出した。

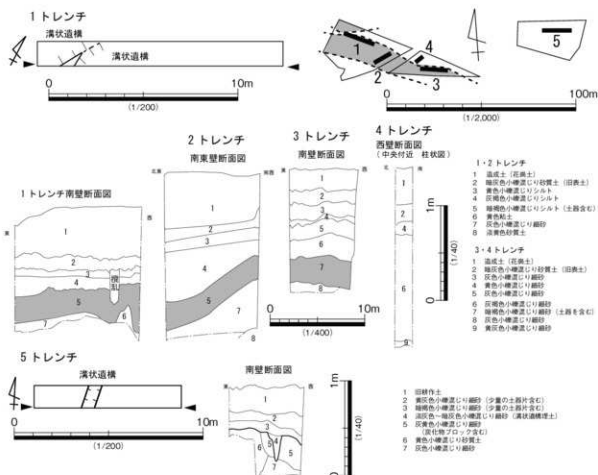
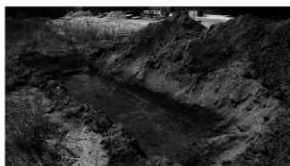


図 4 1～5 トレンチ





上：写真1 1トレンチ 西から  
 右上：写真2 2トレンチ 東から  
 右：写真3 5トレンチ 北西から



溝状遺構を検出した。出土遺物からいずれも古墳時代に属すると考えられる。5トレンチ中央やや西寄りでは南北方向の溝状遺構を確認した。時期は不明である。

#### B地区

協議範囲の南東部は周知の埋蔵文化財包蔵地「赤坂古墳群」の範囲に含まれる。分布調査によってこの範囲に1基の横穴式石室墳の存在を確認した。また、赤坂古墳群の範囲の西方に当たる丘陵北斜面に塊石（約1.3m×0.8m）の存在を確認した。周辺にはそのほかの塊石や土盛りは確認されなかったが、石室の有無を確認するため、塊石の周辺に2か所のトレンチ（6・7トレンチ）を設定した。石室や石材の抜き取り痕、遺物は検出されず、古墳の存在は認められなかった。

協議範囲の西部の丘陵北斜面は段々畑の造成のため、ひな壇状に造成されていた。分布調査では遺物や石材の散布、土盛りは確認されなかった。「田高田北遺跡」の南方の斜面に2か所のトレンチ（8・9トレンチ）を設定した。いずれのトレンチでも遺構・遺物は検出されなかった。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
6	0.4 × 3.8	なし	なし	表土（厚さ0.1～0.2m）の下に黄灰色小礫混じり砂質土（厚さ0.05m）、その下に橙色小礫混じり砂質土（花崗岩風化土）が堆積する。
7	0.4 × 1.5	なし	なし	表土の下に黄灰色小礫混じり砂質土（厚さ0.05m）、その下に橙色小礫混じり砂質土（花崗岩風化土）が堆積する。
8	0.4 × 3.0	なし	なし	表土の下に青灰色～黄灰色砂質土（厚さ0.1m）、その下に黄色小礫混じり砂質土（花崗岩風化土）が堆積する。
9	0.4 × 2.0	なし	なし	表土の下に黄色小礫混じり砂質土（花崗岩風化土）が堆積する。



写真4 赤坂古墳群 横穴式石室 北西から



写真5 6・7トレンチ付近 北から



写真 6 6 トレンチ 北から



写真 7 8 トレンチ 南から

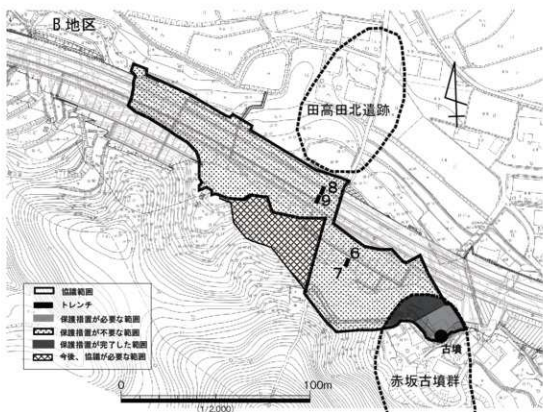


図5 トレンチ配置及び取り扱い図

#### C 地区

協議範囲の中央を南北方向に走る市道田高田帰来線の西側の平地に15か所のトレンチ（10～24トレンチ）、市道の東側の平地に11か所のトレンチ（25～35トレンチ）を設定した。

10～21トレンチ付近は北と南の低丘陵に挟まれた西向きの谷底平野に当たる。この付近の田畑は付近の道路よりもかなり下であったが、数十年前の造成工事によって地上げされた。このため、各トレンチでは現地表下1～2mまでは造成土、その下に細砂層の堆積が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。22～24トレンチでは表土の下に花崗岩風化土の堆積が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

市道田高田帰来線の東側の25トレンチは22～24トレンチと同様、表土の下に花崗岩風化土の堆積が確認された。26トレンチでは表土の下に細砂の堆積が厚さ1.0m以上確認された。27トレンチ東部・28トレンチ北部・29～32トレンチ付近は現在は平地であるが、造成土が厚さ1.2～2.6mと分厚く堆

積し、元の地表はかなり低いことが確認された。この付近は南北方向の谷であったことが想定される。33～35 トレンチでは表土の下に花崗岩風化土が堆積する。いずれのトレンチでも遺構・遺物は確認されなかった。

また、34・35 トレンチの東方の丘陵では東側及び西側の斜面は切り崩され、北側の斜面はひな壇状に造成され、地形が大きく改変されていた。分布調査を行ったが、古墳の墳丘が想定されるような土盛りや、遺物・石材の散布は確認されなかった。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所 見
10	15×20	なし	なし	現地表下21mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.6m以上)が堆積する。
11	15×80	なし	なし	現地表下19mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.5m以上)が堆積する。
12	15×50	なし	なし	現地表下16mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.1m以上)が堆積する。
13	15×45	なし	なし	現地表下15mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.1m以上)が堆積する。
14	15×30	なし	なし	現地表下20mまで表土・造成土、その下には黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.3m以上)堆積する。
15	15×35	なし	なし	現地表下24mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり粗砂(厚さ0.2m以上)堆積する。
16	15×25	なし	なし	現地表下17mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり粗砂(厚さ0.2m以上)堆積する。
17	15×50	なし	なし	現地表下17mまで表土・造成土、その下に黄色粘土(厚さ0.2m以上)堆積する。
18	15×40	なし	なし	現地表下15～16mまで表土・造成土、その下に褐色小礫混じり細砂(厚さ0.1m以上)が堆積する。
19	15×80	なし	なし	現地表下09～21mまで表土・造成土、その下に黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.1m以上)が堆積する。
20	15×50	なし	なし	現地表下11～15mまで表土・造成土、その下に青灰色小礫混じり粗砂(厚さ0.2m以上)が堆積する。
21	15×45	なし	なし	現地表下13～20mまで表土・造成土、その下には黄灰色小礫混じり細砂(厚さ0.2m以上)が堆積する。
22	15×60	なし	なし	現地表下16mまで表土・造成土、その下に黄色砂質シルト～細砂(花崗岩風化土、厚さ0.2m以上)が堆積する。
23	15×80	なし	なし	現地表下18mまで表土・造成土、その下に黄色～青灰色砂質シルト(花崗岩風化土、厚さ0.2m以上)が堆積する。
24	15×80	なし	なし	現地表下06～12mまで表土・造成土。その下に橙色小礫混じり細砂(花崗岩風化土、厚さ0.25m)、さらにその下に花崗岩が堆積する。
25	15×150	なし	なし	現地表下01mまで表土、その下には褐色小礫混じり砂質土(厚さ0.3m、花崗岩風化土か)、黄色小礫混じり細砂(厚さ0.6m以上、花崗岩風化土)が堆積する。
26	15×80	なし	なし	現地表下02mまで表土、その下には上から順に褐色小礫混じり細砂(厚さ0.5～0.6m)、灰褐色小礫混じり細砂(厚さ0.2m)、青灰色小礫混じり細砂(厚さ0.2m以上)が堆積する。
27	12×70	なし	なし	西部では現地表下02mまで表土、その下に黄色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。東部では現地表下16mまで表土・造成土が堆積し、その下に黄色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。
28	12×47	なし	なし	南部では現地表下05mまで表土、その下には上から順に黄灰色小礫混じり砂質土(厚さ0.2m)、黄色小礫混じり砂質土(厚さ0.6m以上、花崗岩風化土)が堆積する。北部では表土・造成土が現地表下12m以上堆積する。
29	12×53	なし	なし	現地表下26mまで表土・造成土、その下に灰黄色細砂が堆積する。
30	12×66	なし	なし	西部では現地表下02mまで表土、その下に橙色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。東部では現地表下17mまで表土・造成土、その下に褐色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。
31	12×45	なし	なし	現地表下26mまで表土・造成土、その下に灰黄色細砂が堆積する。
32	12×47	なし	なし	現地表下20mまで表土・造成土、その下に青灰色細砂、黒褐色粘土(よくしまる)が堆積する。
33	12×340	なし	なし	現地表下02mまで表土、その下に褐色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。
34	12×90	なし	なし	現地表下02mまで表土、その下に褐色小礫混じり砂質土(厚さ0.2m)、褐色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。
35	12×20	なし	なし	現地表下02mまで表土、その下に褐色小礫混じり砂質土(花崗岩風化土)が堆積する。

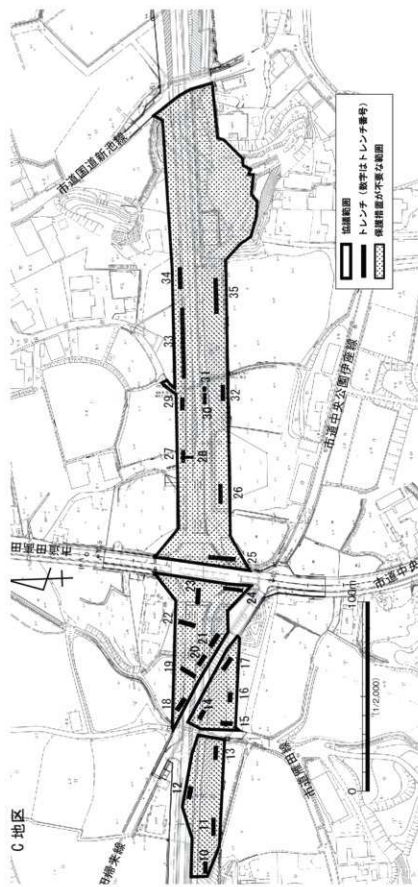


図6 トレンチ配置図と取扱い図



写真8 10～24トレンチ付近 北東から



写真9 11トレンチ 南東から



写真10 12トレンチ 南東から



写真11 22トレンチ 南から



写真12 24トレンチ 南東から



写真13 25トレンチ 北から



写真14 28トレンチ 北から



写真15 30トレンチ 北東から



写真 16 33 トレンチ 東から



写真 19 34・35 トレンチ東方の丘陵北斜面 西から



写真 17 35 トレンチ 東から



写真 20 34・35 トレンチ東方の丘陵西斜面 西から



写真 18 32 トレンチ 南西から



写真 21 34 トレンチ 西から

## D地区

協議範囲はバイパスが現道（国道11号）に取り付く部分である。範囲の中央に低丘陵がある。低丘陵の西側に2か所のトレンチ（36・37トレンチ）、東側に2か所（38・39トレンチ）を設定した。37トレンチでは表土の下に花崗岩風化土の堆積が確認された。38・39トレンチ付近は造成土の堆積が0.7～1.4mと分厚い。いずれのトレンチでも遺構・遺物は検出されなかった。中央部の低丘陵はひな壇状に造成され、地形が大きく改変されていた。分布調査を行ったが、古墳のマウンドと考えられる盛り上がりや、遺物・石材の散布は確認されなかった。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
36	15 × 60	なし	なし	現地表下1.4mまで表土・造成土、その下には上から順に灰色～青灰色粗砂（厚さ0.35m）、灰色粘質シルト（厚さ0.15m）、青灰色細砂（厚さ0.3m以上）が堆積する。
37	15 × 50	なし	なし	現地表下0.2mまで表土、その下には上から順に細灰色小礫混じり砂質土（厚さ0.4m、花崗岩風化土）、橙色小礫混じり砂質土（厚さ0.1m以上、花崗岩風化土）が堆積する。
38	15 × 60	なし	なし	現地表下0.7～1.0mまで表土・造成土、その下には橙色小礫混じり細砂（0.4m以上）が堆積する。
39	15 × 50	なし	なし	現地表下1.4mまで表土・造成土、その下には橙色小礫混じり細砂（厚さ0.3m以上）が堆積する。

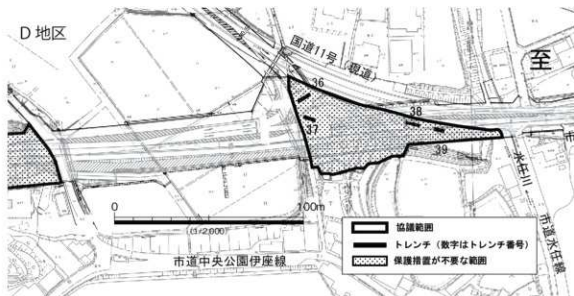


図7 トレンチ配置及び取り扱い図



写真22 36トレンチ 西から



写真23 37トレンチ 南西から



写真 24 38 トレンチ 南西から



写真 25 38・39 トレンチ付近 東から

#### まとめ

以上の調査結果から、A 地区では図 3 に示す協議対象地のうち 1,031㎡の範囲については「城泉遺跡」、564㎡の範囲については「城泉東遺跡」、B 地区では図 5 に示す協議範囲のうち 400㎡の範囲については「赤坂古墳群」として事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。C・D 地区については保護措置不要と判断した。

### 国道 11 号大内白鳥バイパス建設（4 工区）

#### 対象地の状況

今回の対象地は 2 地区（E・F 地区）である。E 地区は東かがわ市中山に所在し、丘陵に挟まれた谷底平野に位置する。協議範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地「中山遺跡」に北接し、西方 100 m には「坪井遺跡」が存在する。F 地区は東かがわ市小砂に所在し、丘陵に挟まれた谷底平野に位置する。

#### 調査の結果

##### E 地区

協議範囲はいずれも田畑である。範囲の中央には市道中土居中山線が東西に走る。市道の北側に 4 か所のトレンチ（40～43 トレンチ）、市道の南側に 3 か所のトレンチ（44～46 トレンチ）を設定した。

40 トレンチでは古墳時代から古代の土器片が少量出土した。41・42 トレンチでは古墳時代から古代と考えられる 4 条の溝状遺構が検出され、土器片・須恵器片が少量出土した。43 トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。44 トレンチでは 1 個の柱穴跡と 1 条の溝状遺構、45 トレンチでは 1 条の溝状遺構が検出された。また、近世以降と考えられる井戸跡が検出された。46 トレンチでは 9 個の柱穴跡、3 条の溝状遺構が検出された。44～46 トレンチでは遺物は出土しなかったが、いずれの遺構も古墳時代から中世の間に属すると考えられる。

##### F 地区

協議範囲は田畑と低丘陵である。範囲の中央に市道中山砂本線が東西に走る。市道の南側には 4 か所のトレンチ（47～50 トレンチ）、市道の北側に 6 か所のトレンチ（51～56



図 8 調査地位置図

国土地理院地形図 1/25,000 の一部に加筆



番号	規模 (m)	遺構	遺物	所 見
40	1.0 × 12.8	なし	土師器片 7	40・41 トレンチは同筆の田畑に設定したトレンチ。現地表下 0.3 m までは耕作土、その下に橙色小礫混じり砂質土 (厚さ 0.2 m)、灰褐色粗砂～細砂 (厚さ 0.25 m、遺物を含む)、褐色小礫混じり砂質土、黄褐色粗砂が堆積する。周辺の調査結果から褐色小礫混じり砂質土の上面が遺構面と考えられるが、遺構は検出されなかった。
41	1.0 × 12.4	溝状遺構 2	土師器片 11	現地表下 0.3～0.4 m までは耕作土・造成土が堆積する。その下に小礫混じり砂質土 (厚さ 0.2 m)、灰色小礫混じり粗砂 (厚さ 0.1～0.25 m、遺物を含む)、赤橙色小礫混じり砂質土・灰褐色小礫混じり粘質シルトが堆積する。赤橙色小礫混じり砂質土の上面で遺構が検出された。
42	1.0 × 15.5	溝状遺構 2	須恵器片 2、 土師器片 11	42・43 トレンチは同筆の田畑に設定したトレンチ。現地表下 0.3～0.4 m までは耕作土・造成土が堆積する。その下には小礫混じり砂質土 (厚さ 0.2 m)、暗褐色小礫混じり砂質シルト及び灰褐色粗砂 (厚さ 0.2 m、両層とも遺物含む) が堆積する。これらの下には南部では橙色粘土、中央部では灰褐色粘質シルト、北部では灰白色細砂混じり粘質シルトが堆積し、これらの上面では 2 条の溝状遺構が検出された。南側の溝状遺構の埋土からは古代の須恵器杯口縁部片が出土した。
43	1.0 × 9.5	なし	なし	現地表下 0.3 m まで耕作土が堆積する。その下には黄色細砂 (厚さ 0.15 m)、灰褐色粗砂 (厚さ 0.2 m)、灰褐色小礫混じり粘質土及び橙色粘土 (42 トレンチの遺構面に相当) が堆積する。
44	1.2 × 3.0	溝状遺構 1、 柱穴跡 1	なし	現地表下 0.6m まで造成土が堆積する。その下に堆積する黄褐色粗砂混じりシルト上面で溝状遺構・柱穴跡が検出された。遺物は確認されなかったが、柱穴の平面形態から、遺構は古代に属する可能性が高い。
45	1.2 × 17.5	溝状遺構 1	なし	現地表下 0.6 m まで造成土が堆積する。44 トレンチと同様、その下に堆積する黄褐色粗砂混じりシルト上面で溝状遺構が検出された。
46	1.2 × 17.0	溝状遺構 3、 柱穴跡 9	なし	現地表下 0.4 m まで造成土が堆積する。44 トレンチと同様、その下に堆積する黄褐色粗砂混じりシルト上面で溝状遺構、柱穴跡が検出された。

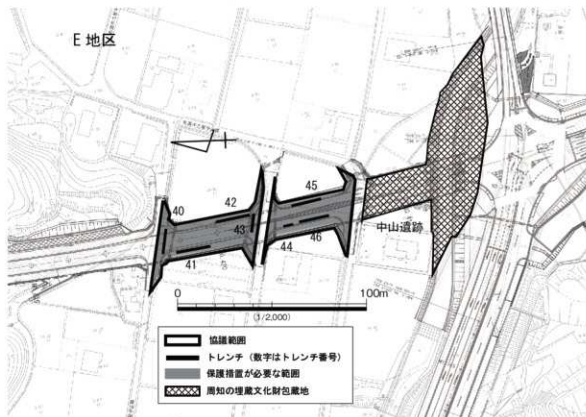


図9 トレンチ位置図と取扱い図

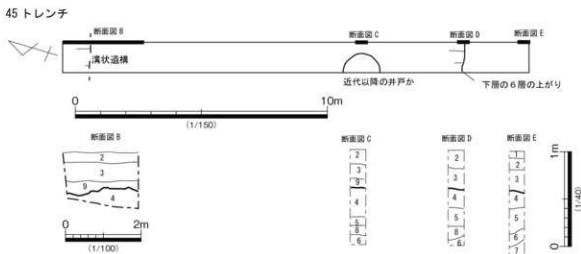
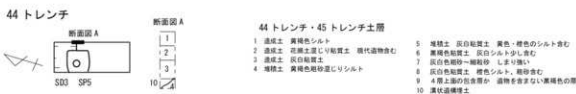
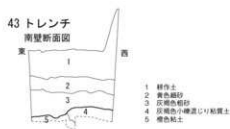
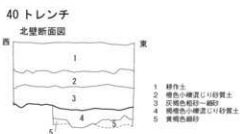
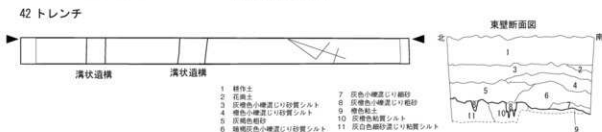
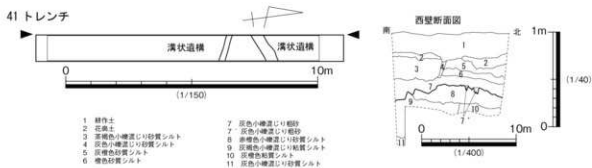


図 10 40～45 トレンチ

46 トレンチ

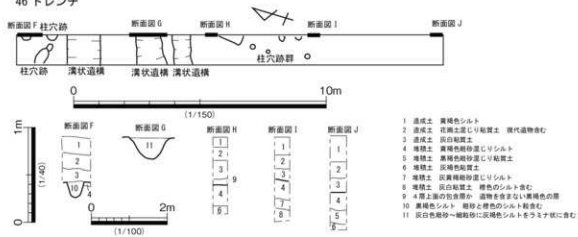


図 11 46 トレンチ



写真 26 40 トレンチ 東から



写真 29 44 トレンチ 東から



写真 27 41 トレンチ 北から



写真 28 42 トレンチ南部 南西から



写真 30 45 トレンチ 北から



写真 31 46 トレンチ 北から



写真 32 46 トレンチ 西から

トレンチ)を設定した。50 トレンチと 51 トレンチの間の低丘陵北斜面は切り崩されており、遺物の散布は確認されなかった。

市道南側の 47・48 トレンチは西から延びる尾根上の末端に位置する。47 トレンチでは弥生時代の柱穴跡・土坑跡が検出され、弥生土器片 3 点が出土した。48 トレンチでは 1 個の柱穴跡が検出された。遺物は出土しなかったが、弥生時代のもと考えられる。49・50 トレンチは 47・48 トレンチの北方の畑に設定したトレンチである。この畑は東から延びる幅 30 m ほどの谷に位置し、30 年ほど前に造成工事が行われて地上げされたことから、現地表は 47・48 トレンチを設定した田畑よりも 1 m ほど高い。このため 49・50 トレンチでは耕作土の下には厚さ 1.3～1.7 m の造成土、その下に細砂の堆積が確認された。49 トレンチでは耕作土から土器片が出土したが、造成土より下の堆積土層からは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
47	15 × 100	柱穴跡 1、土坑跡 1	弥生土器片 3	現地表下 0.4 m まで耕作土、その下には橙色粘質シルト (厚さ 0.2～0.3 m) が堆積し、同層上面で遺構が検出された。埋土から弥生時代前期後半から中期初頭の土器片が出土した。橙色粘質シルトの下には細砂、砂質シルトが 0.9 m 以上堆積する。
48	15 × 9.0	柱穴跡 1	なし	現地表下 0.2 m まで耕作土、その下には鉄分集積層である黄灰色小礫混じり細砂層が水平に堆積する。南部ではその下に黄灰色小礫混じり細砂 (厚さ 0.15 m) が堆積し、同層上面で遺構が検出された。同層の下には砂質シルト (厚さ 0.6 m) が堆積。北部では鉄分集積層の下に細砂が 1 m 堆積する。現地表下 1.2～1.4 m で黒色粘土が水平に堆積する。
49	15 × 5.5	なし	土器片 1	現地表下 1.9 m まで耕作土・造成土、その下に細砂・砂質シルトが堆積する。耕作土中から土器片が出土した。
50	15 × 2.5	なし	なし	現地表下 1.5～1.6 m まで耕作土・造成土、その下には細砂が堆積する。
51	15 × 2.1	なし	なし	現地表下 0.2 m まで耕作土、その下には青灰色粘土 (厚さ 0.1 m) が水平に堆積し、さらにその下には暗灰色粘土や青灰色細砂が 1.3 m 以上堆積する。
52	15 × 8.0	なし	土器片 1	現地表下 0.2 m まで耕作土、その下には鉄分集積層の橙色小礫混じり砂質シルト、細砂 (厚さ 0.4～0.7 m、上部から土器片が出土) が堆積し、さらにその下には粘土や細砂が 1.2 m 以上水平に堆積する。
53	15 × 8.0	なし	なし	現地表下 0.2 m まで耕作土、その下には鉄分集積層である橙色小礫混じり砂質シルトが堆積する。その下には粘質シルト、細砂、砂質シルトが 0.9 m 以上水平に堆積する。
54	15 × 6.5	なし	なし	現地表下 0.2 m まで耕作土、その下には鉄分集積層である淡黄色小礫混じり砂質シルトが堆積する。その下には粘質シルト・砂質シルト・粘土が 1.5 m 以上水平に堆積する。
55	15 × 6.5	なし	なし	現地表下 0.6 m まで耕作土・造成土、その下には砂質シルト・粘質シルトが 1 m 以上水平に堆積する。
56	15 × 6.7	なし	なし	現地表下 0.25 m まで耕作土、その下には鉄分集積層である橙色シルトが堆積する。その下には粘質シルト・細砂・粘土が 1.3 m 以上水平に堆積する。

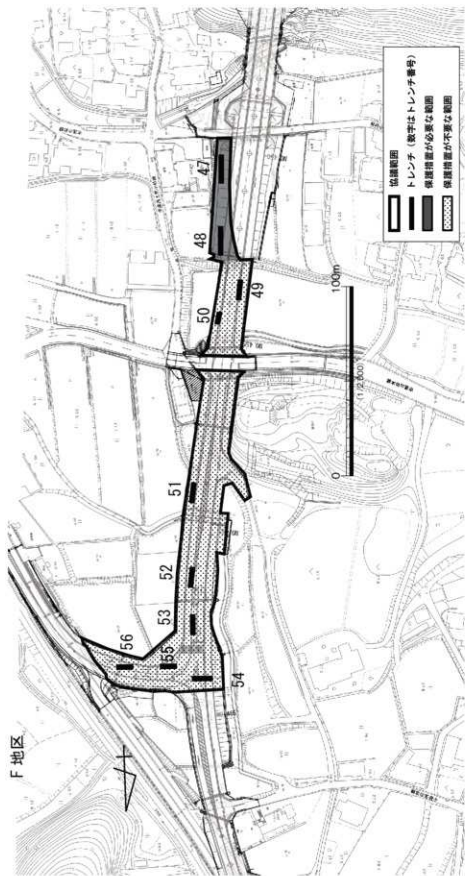
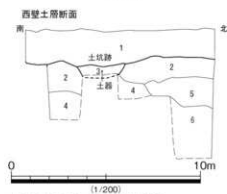
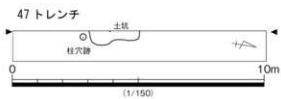
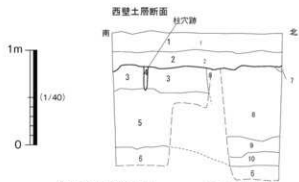


図 12 トレンチ位置図と取扱い図



- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 1 緑粘土 (暗灰色砂質シルト) | 4 灰褐色細砂   |
| 2 褐色粘質シルト        | 5 灰色砂質シルト |
| 3 暗灰色細砂混じり粘質シルト  | 6 灰色細砂    |



- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1 緑粘土 (暗灰色砂質シルト)    | 7 褐色小礫混じり細砂    |
| 2 黄灰色小礫混じり細砂        | 8 大礫・小礫混じり黄色細砂 |
| 3 褐色小礫・細砂混じり砂質シルト   | 9 暗黄褐色細砂       |
| 4 暗黄褐色小礫・細砂混じり砂質シルト | 10 灰色粘質シルト     |
| 5 黄色細砂混じり砂質シルト      | 11 栗色粘土        |
| 6 栗色粘土              |                |

図 13 47・48 トレンチ



写真 33 47 トレンチ 東から



写真 34 47 トレンチ 東から



写真 35 48 トレンチ 南から



写真 36 51 トレンチ 北東から



写真 37 52 トレンチ 南西から



写真 38 54 トレンチ 西から



写真 39 55 トレンチ 南より



写真 40 56 トレンチ 東から

51～56 トレンチはいずれも耕作土の下に細砂や粘土が堆積する。52 トレンチからは現地地表下 0.3 m の細砂から土器片が出土したことから、周辺に遺跡が存在した可能性もあるが、遺構は検出されなかった。そのほかのトレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。

#### まとめ

以上の調査結果から、E 地区では図 9 に示す協議対象地の 2,066㎡の範囲については「中山北遺跡」として、F 地区では図 12 に示す協議対象地の 597㎡の範囲について「小砂大木遺跡」として事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。

### 国道 11 号豊中観音寺拡幅

#### 対象地の状況

今回の対象地は観音寺市本大町に所在する。東から西に向かって流れる二級河川財田川の南岸から 150～350 m の地点の沖積平野に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「桶ノ口遺跡」に隣接する。

#### 調査の結果

1・2 トレンチでは耕作土の下に細砂が



図 14 調査地位位置図 国土地理院地形図 1/25,000 の一部に加筆

分厚く堆積し、河川の氾濫原であったことが確認された。3トレンチでは2面の遺構面が確認され、弥生時代から中世と考えられる柱穴跡や溝状遺構が確認された。4・5トレンチでは旧耕作土の下には河川跡が確認された。埋土やその上部の旧耕作土層から少量の土器片が出土したものの、いずれも摩滅が激しい。6～11トレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。

#### まとめ

以上の調査結果から、図15に示す協議対象地の524㎡の範囲については「樋ノ口遺跡」として事業

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	1.5×90	なし	土器片1	現地表下1.4mまで造成土・耕作土、その下には1.5m以上細砂が堆積する。河川の氾濫原である。耕作土から土器片が1点出土した。
2	1.5×30	なし	なし	現地表下1.2mまで造成土・耕作土、その下には0.5m以上細砂が堆積する。河川の氾濫原である。
3	1.5×70	溝状遺構 3、柱穴跡2	土器片1	現地表下1.0～1.1mまで造成土・耕作土、その下には灰褐色粘質シルト(厚さ0.1m)が水平に堆積する。さらにその下には灰色シルトブロックや炭化物を含む黄色粘質シルト(厚さ0.2m、上面で遺構を検出、1面)、灰色シルト(上面で遺構を検出、2面)、粘質シルト(厚さ0.8m以上)が水平に堆積する。1面で検出した遺構から土器片1点(時期不明)が出土した。
4	1.5×60	旧河川跡	土器片8	現地表下1.4mまで造成土・耕作土、その下には細砂、礫混じり粗砂、大礫混じり粗砂が水平に堆積する。旧河川跡の堆積物である。現地表下1.5m付近の細砂から土器片8点(摩滅)が出土した。
5	1.5×70	旧河川跡	土器片7	現地表下1.3～1.4mまで造成土・耕作土、その下には細砂が1.3m以上堆積する。旧河川跡の堆積物である。旧耕作土から土器片が7点(いずれも摩滅が激しい)出土した。
6	1.5×65	なし	なし	現地表下1.5mまで造成土、その下には黄灰色粘土が堆積する。
7	1.5×50	なし	なし	現地表下1.75mまで造成土・耕作土、その下には淡青灰色粘土が堆積する。
8	1.5×50	なし	なし	現地表下1.75mまで造成土・旧耕作土、その下には淡黄灰色粘土(厚さ0.8m以上)が堆積する。
9	1.5×70	なし	なし	現地表下1.8mまで造成土・耕作土、その下には黄褐色粘質シルト(厚さ0.6m以上)が堆積する。
10	1.5×70	なし	なし	現地表下2.5mまで造成土・耕作土、その下には灰青色細砂(厚さ0.3m以上)が堆積する。
11	1.5×90	なし	なし	現地表下1.3mまで造成土・耕作土、その下には淡黄褐色粘土(厚さ0.7m以上)が堆積する。

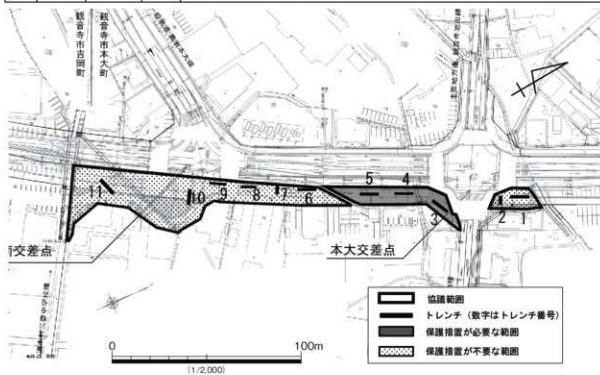


図15 トレンチ位置図と取扱い図



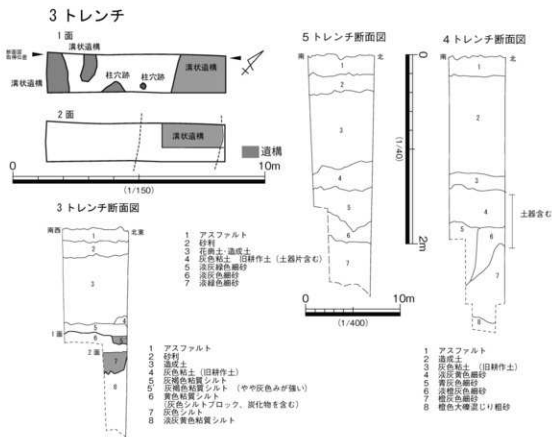


図 16 3～5 トレンチ



写真 41 1 トレンチ 北から



写真 42 3 トレンチ 南西から



写真 43 4 トレンチ 南から

実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。

## 国道 438 号（飯山工区・綾歌工区）道路整備

### 対象地の状況

今回の対象地は 4 地区（A～D 地区）である。A～C 地区は丸亀市飯山町上法軍寺に所在する。A 地区は丸亀平野東部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「沖遺跡」・「沖南遺跡」に隣接する。B・C 地



写真44 5トレンチ 南東から



写真45 7トレンチ 北東から



写真46 9トレンチ 南から



写真47 11トレンチ 南から

区は岡田台地に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「岡遠田遺跡」に隣接する。D地点は丸亀市綾歌町岡田東に所在し、C地区と同じ岡田台地上に位置する。

#### 調査の結果

##### A地区

A地区は北部と南部に分かれる。北部の大部分は丸亀市飯山南コミュニティセンターの建物と駐車場跡地で、「沖遺跡」に隣接する。南部は宅地跡及び田畑で、「沖南遺跡」に隣接する。北部には7本のトレンチ（1～7トレンチ）、南部には5本のトレンチ（8～12トレンチ）を設定した。

A地区北部の1・2・4・5・7トレンチは丸亀市飯山南コミュニティセンターの建物跡地である。建物基礎による攪乱が大きく、遺構・遺物は確認されなかった。3・6トレンチでは暗褐色粘質土及び砂質土



図18 調査地位置図  
土地理院地形図 1/25,000 の一部に加筆

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	15 × 40	なし	なし	建物(丸亀市飯山南コミュニティセンター)跡地。現地表から0.85mまで建物基礎を検出した。建物基礎以外の部分は現地表から深さ1.0m以上造成土が堆積する。遺構面は削平されたと考えられる。
2	15 × 40	なし	なし	建物跡地。現地表から1.8mまで造成土。その下には灰色粘土・青灰色粘土が堆積する。遺構面は削平されたと考えられる。
3	15 × 80	柱穴跡3、溝状遺構1、土坑跡2	土器片8、陶磁器片1	駐車場跡地。現地表から深さ0.5mまでアスファルト・造成土・耕作土が堆積する。その下には上から順に乳灰黄色砂質土(厚さ0.15～0.2m)、暗褐色粘質土(厚さ0.1m)、黄褐色砂質土(厚さ0.4m)、青灰色砂質土(厚さ0.2m以上)が堆積する。暗褐色粘質土上面で遺構を検出した。埋土の遺物は確認していないが、埋土の土質などから中世に属する可能性が高い。乳灰黄色砂質土層から土器片7点、近世陶磁器片、暗褐色粘質土からは土器片1点(時期不明)が出土した。黄褐色砂質土の上面で遺構は検出されなかった。
4	15 × 100	なし	なし	建物跡地。現地表から深さ0.6m～1.1mまで造成土が堆積する。造成土が浅いところでは乳灰色砂質土(厚さ0.15m)、暗褐色粘質土(厚さ0.15m)、黄褐色粘質土(厚さ0.1m以上)が堆積する。
5	15 × 50	なし	なし	建物跡地。西部では現地表から深さ1.4mまで造成土、その下には灰色粘土が堆積する。東部では深さ0.9mまで造成土、その下に建物基礎が存在する。遺構面は削平されたと考えられる。
6	12 × 58	柱穴跡3	なし	駐車場跡地。現地表から深さ0.9mまで造成土、その下には灰色砂質土(厚さ0.1m)、乳灰黄色砂質土(厚さ0.05m)、暗褐色砂質土(厚さ0.2m)、灰色細砂(厚さ0.1m以上)が堆積する。暗褐色砂質土上面で柱穴跡3を検出した。灰色細砂の上面で遺構は検出されなかった。
7	15 × 80	なし	なし	建物跡地に設定したI字状のトレンチ。現地表から深さ0.6m～1.2m以上まで造成土、その下に黒色粘質土、青灰色砂質土が堆積する。
8	10 × 62	溝2	弥生土器	現地表下0.3m前後までは現代の耕作土と床土が堆積し、その直下に中世以降とみられる淡黄色粘土や褐色粘土、南部で褐色粘土等の層厚0.2～0.35m前後の包含層が水平堆積する。包含層下で地山(無遺物層)とみられる淡黄色粘土が露出する。地山層上面で北に東西西する溝SD04と、南に2トレンチより連続する北東方向へ流下する溝SD01を検出した。埋土から遺物は出土していない。
9	10 × 115	溝1	弥生土器・土師質土器・土師製土器・ササカイ土割片	宅跡跡に設定したトレンチで、現地表下0.4m前後までは、盛土や旧耕作土・床土層が堆積し、その直下に1トレンチと同様に、中世以降とみられる包含層が水平堆積(4・6・7層、厚0.4～0.5m)する。包含層下で地山(無遺物層)とみられる淡黄色粘土が露出する。地山層上面で溝SD01を検出した。本トレンチでは、包含層もしくは遺構面より掘り込まれた遺構の有無を確認するため、遺構を掘り下げずに、遺構面と壁面の精査を行ったが、遺構は検出されず、遺構面は1面と判断した。遺物は包含層6層よりササカイ土割片1点、同7層より土師質土器小片1点と弥生土器小片2点が出土した。
10	10 × 140	溝2	弥生土器・土師質土器	地表面下10～15cmまで耕作土、その下に1・2トレンチ同様に中世以降とみられる包含層(4・6・7層)が水平堆積する。包含層下で地山(無遺物層)とみられる淡黄色粘土(11層)が露出する。地山層上面で北東方向へ流下する溝状遺構SD01・SD02・SD03を検出した。SD01とSD02とトレンチ北部で合流し、2トレンチへ連続するものと考えられる。遺物は包含層6層より弥生土器小片と土師質土器小片各1点、同7層より弥生土器小片2点、SD02より弥生土器底部部片1点が出土した。
11	10 × 140	柱穴11	なし	宅跡跡に設定したトレンチで、現地表下0.3～0.5m前後までは、盛土や旧耕作土が堆積し、その直下に1トレンチと同様に、中世以降とみられる包含層の水平堆積(6・7層、層厚0.2m前後)を確認した。包含層下で地山(無遺物層)とみられる淡黄色粘土が露出する。地山層上面で柱穴11基を検出した。柱穴の平面形状は径0.15～0.2m程度の円形で、埋土は概ね灰褐色粘質シルトであった。柱穴内から遺物は出土しなかったが、埋土や形状より、中世の可能性を想定する。なお、トレンチ内では遺物は復元できなかった。
12	15 × 90	谷	弥生土器片・須恵器片・土師質土器・ササカイ土割片	地表面下0.35m前後まで耕作土・床土が堆積し、その下に1・2トレンチ同様に中世以降とみられる包含層(3～5層、層厚70cm前後)が水平堆積する。包含層下で、谷部埋土と考えられる黒色粘土の堆積層(6・7層、層厚0.7m前後)と、谷最下層の灰色系砂層(8層、層厚0.1m前後)が堆積する。砂層下面が地山面となる。黒色粘土の上面は起伏が顕著で、水田面等の可能性もあるが、湧水が散く断定するまでは至らなかった。遺物は、包含層5層より弥生土器小片1、須恵器小片1、土師質土器小片1、ササカイ土割片1点、谷埋土の黒色粘土(6・7層)より弥生土器小片12点が出土した。

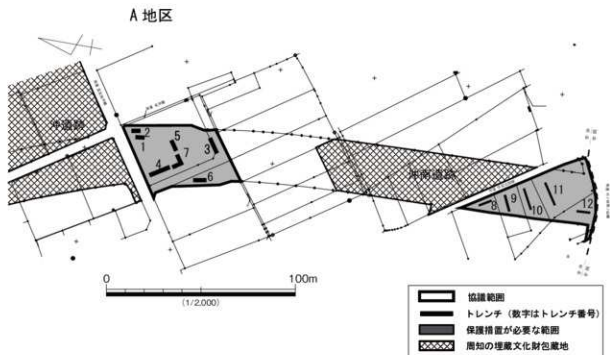


図 19 トレンチ位置図と取扱い図

の上面で柱穴跡・溝状遺構が検出された。遺構出土の遺物は確認できなかったが、埋土の状況や北方の沖遺跡で検出された柱穴跡の時期から、中世に属する可能性が高い。3 トレンチではこれらの遺構面を構成する暗褐色粘質土中から土器片 1 点が出土した。小片のため時期不明である。暗褐色粘質土の下の黄褐色砂質土上面でも遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。6 トレンチでは遺構面を構成する暗褐色砂質土中からは遺物は確認されず、その下に堆積する灰色細砂の上面では遺構は確認できなかった。

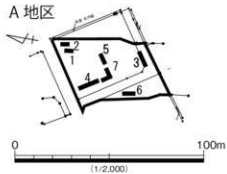
A 地区の南部では 5 本のトレンチ (8～12 トレンチ) を設定した。8 トレンチでは 2 条の溝状遺構が検出された。遺物は出土しておらず、時期は不明である。9 トレンチでは 1 条の溝状遺構、10 トレンチでは 3 条の溝状遺構が検出された。10 トレンチの西部で検出された溝状遺構 SDOI は 9 トレンチの溝状遺構に連続すると考えられる。11 トレンチでは 11 個の柱穴跡が検出された。遺物は出土しなかったが、埋土や柱穴跡の形状から中世に属する可能性が高い。12 トレンチでは河川跡が検出された。埋土から弥生土器小片が少量出土したことから、弥生時代以降の河川跡と考えられる。

#### B 地区

B 地区は A 地区の 600 m 南に位置する。B 地区の西には岡 1 号池があり、協議範囲は池の堤体の北東から東に当たる。田畑に 4 本のトレンチ (13～16 トレンチ) を設定した。15 トレンチでは 1 個の

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所 見
13	1.2 × 12.0	なし	弥生土器片	地皮下 0.3 m で基盤層を検出した。後世の削平を大きく受けており、遺構は確認されない。調査区の北側に向かってわずかに基盤層は下がる。弥生土器片が 1 点確認された。
14	1.2 × 12.0	なし	なし	地皮下 0.3 m で基盤層を検出した。後世の削平を受ける。基盤層はほぼ水平である。
15	1.2 × 15.0	柱穴跡 1	なし	地皮下 0.3 m で遺構面を検出した。柱穴跡 1 個が検出された。遺構面は他の調査区と同様に黄色シルト層である。ほぼ水平であることから、後世に削平されたことが想定される。柱穴は深さ 0.15 m 程度である。
16	1.2 × 12.0	柱穴跡 3	なし	地皮下 0.3 m で遺構面を検出した。調査区の西部で柱穴跡 3 個が検出された。基盤層は遺構面に相当し、ほぼ水平であることから、基盤層は後世に削平されたことが想定される。

A地区



6 トレンチ

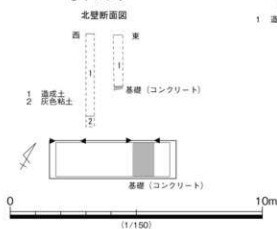


西壁断面図



- 1 造成土
- 2 灰色砂質土
- 3 乳白色砂質土
- 4 緑褐色粘質土
- 5 灰色砂

5 トレンチ

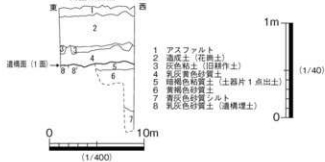


- 1 造成土
- 2 灰色粘土

3 トレンチ



南壁断面図



- 1 アスファルト
- 2 造成土 (花崗土)
- 3 灰色粘土 (旧耕作土)
- 4 灰色黄色砂質土
- 5 緑褐色粘質土 (土器片1点出土)
- 6 黄褐色粘質土
- 7 黄褐色粘質土
- 8 乳白色砂質土 (遺構埋土)

1 トレンチ



2 トレンチ



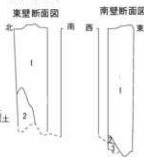
- 1 造成土
- 2 灰色粘土
- 3 黄褐色粘土
- 4 黄褐色粘土

4 トレンチ



- 1 造成土
- 2 乳白色粘質土
- 3 緑褐色粘質土
- 4 黄褐色粘質土

7 トレンチ



- 1 造成土
- 2 灰色粘土
- 3 黄褐色粘土
- 4 黄褐色粘土

8 トレンチ

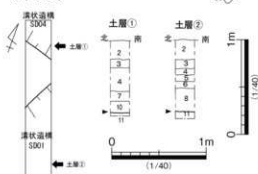


図20 1～8 トレンチ

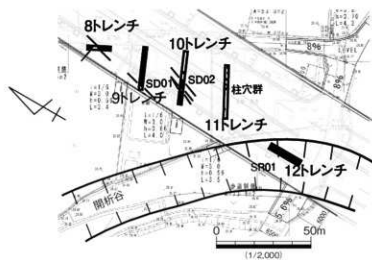
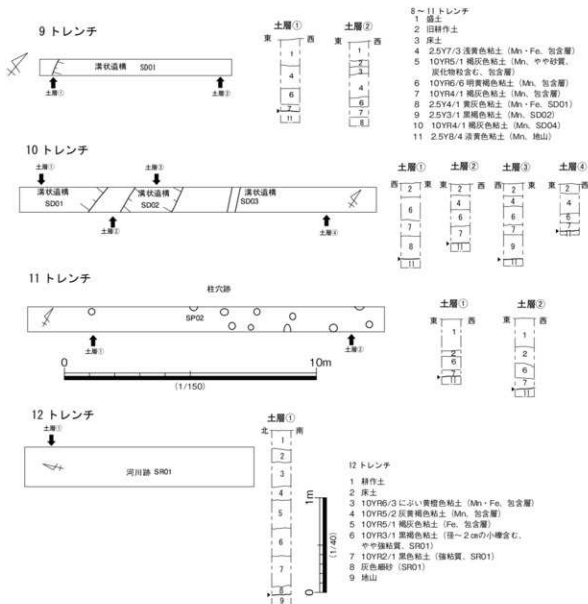


図 21 9～12 トレンチ

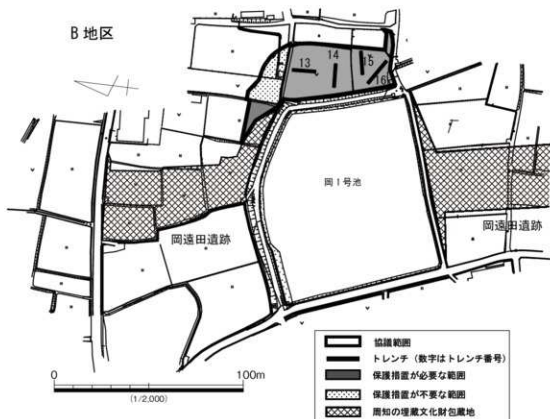


図22 トレンチ位置図と取扱い図

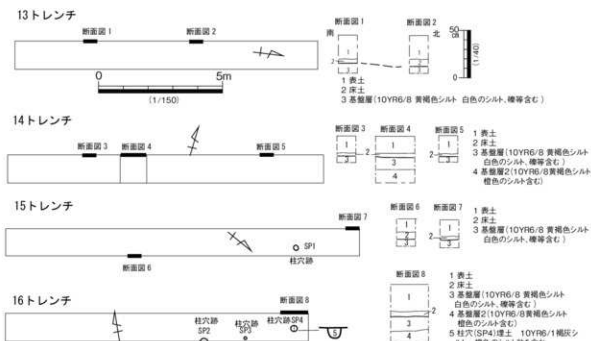


図23 13～16トレンチ

柱穴跡、16トレンチでは3個の柱穴跡を検出した。埋土から遺物は出土していないが、柱穴跡の形状から中世のものと考えられる。また、13トレンチを設定した北側の筆の地表面は1mほど低く、遺構面よりも0.7m以上低いことから、田畑造成時の削平によって遺構・遺物は残存していないと考えられる。

#### C地区

C地区はB地区の300m南に位置する。14本のトレンチ（17～30トレンチ）を設定した。17～19トレンチは国道438号（現道）の北、20～30トレンチは南に位置する。17トレンチでは2個の柱穴跡、18トレンチでは1個の柱穴跡が検出された。18トレンチの南の筆や、19トレンチの西、北の筆には試掘トレンチを設定していないが、周辺の調査状況から遺構が広がると考えられる。

現道の南では西から東に向かって低くなり、東の田畑は西に比べ一段低い。20トレンチでは7個の柱穴跡、21トレンチでは4個の柱穴跡、22トレンチでは1個の柱穴跡、23トレンチでは6個の柱穴跡、26トレンチでは1個の柱穴跡、27トレンチでは1個の柱穴跡、1基の土坑跡が検出された。28トレンチでは2個の柱穴跡が検出された。29トレンチでは1個の柱穴跡と1条の溝状遺構が検出された。30トレンチでは遺構は検出されなかった。いずれの遺構も埋土から遺物が出土していないが、包含層から須恵器や、中世に属すると考えられる土器片・陶磁器片が出土していることや柱穴跡の形状から、これらの遺構は古墳時代から中世に属すると考えられる。

#### D地区

D地区はC地区の600m南に位置する。東西方向の市道の北側の田畑に4か所のトレンチ（31～34トレンチ）

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
17	1.0 × 10.0	柱穴跡2	土器片1 中世陶磁器片1	耕作土の下に橙色粘質土（厚さ0.1m）、灰褐色砂質土（厚さ0.15m）、橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡2を検出した。
18	1.0 × 12.3	柱穴跡1	土器片3, 須恵器片1	耕作土の下に橙色粘質土（厚さ0.1m）、灰褐色粘質土（厚さ0.15m）、橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡1個を検出した。
19	1.0 × 6.5	なし	土器片1	耕作土の下に橙色粘質土（厚さ0.1m）、灰褐色砂質土（厚さ0.15m）、橙色粘土が堆積する。灰褐色砂質土から土器片が出土した。
20	1.2 × 9.8	柱穴跡8	土器片10, 須恵器片1	耕作土の下に灰褐色粘土（厚さ0.2～0.35m）、橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡8個を検出した。
21	1.2 × 6.2	柱穴跡4	土器片3, 陶磁器片1	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡4個を検出した。
22	1.4 × 9.0	柱穴跡1	なし	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡1個を検出した。
23	1.0 × 10.3	柱穴跡6	土器片4, 須恵器片1	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡6個を検出した。
24	1.0 × 6.6	なし	なし	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。
25	1.0 × 6.3	なし	なし	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。
26	1.2 × 9.0	柱穴跡1	土器片1	耕作土の下に灰褐色粘土（厚さ0.3m）、橙色粘土が堆積する。橙色粘土上面で柱穴跡1を検出した。
27	1.0 × 10.0	柱穴跡1, 土坑跡1	土器片2	耕作土の下には上から順に橙色砂質土（厚さ0.1m）、灰褐色粘質土（厚さ0.15m）、淡黄色粘土が堆積する。淡黄色粘土上面で柱穴跡1、土坑跡1を検出した。
28	1.2 × 8.5	柱穴跡2	土器片3, 須恵器片1	耕作土の下に灰褐色砂質シルト（厚さ0.15～0.2m）、橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で柱穴跡2を検出した。
29	1.2 × 4.6	溝状遺構1, 柱穴跡1	陶磁器片2	耕作土の下に橙色粘質土（厚さ0.05～0.1m）及び灰色砂質土（厚さ0.05m）、その下に橙色粘土が堆積する。橙色粘土の上面で溝状遺構1、柱穴跡1を検出した。
30	1.2 × 8.3	なし	なし	耕作土の下に橙色粘土が堆積する。



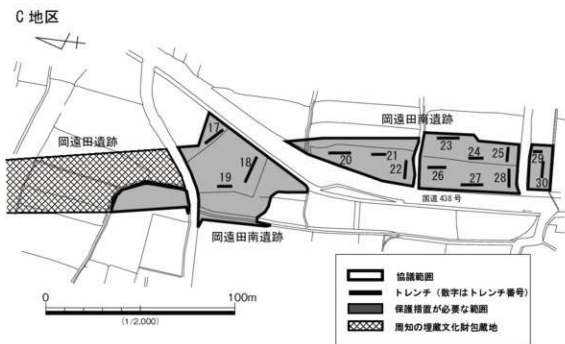


図24 トレンチ位置図と取扱い図

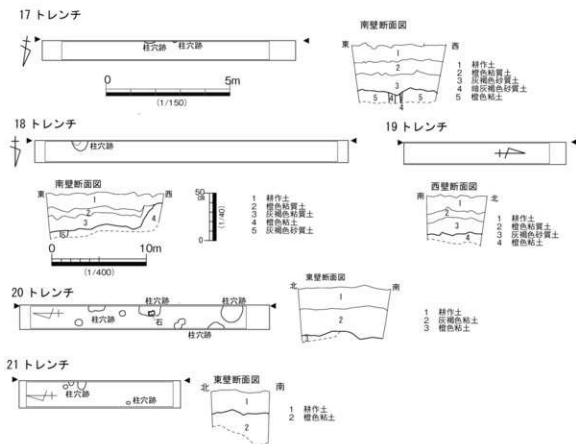


図25 17～21 トレンチ

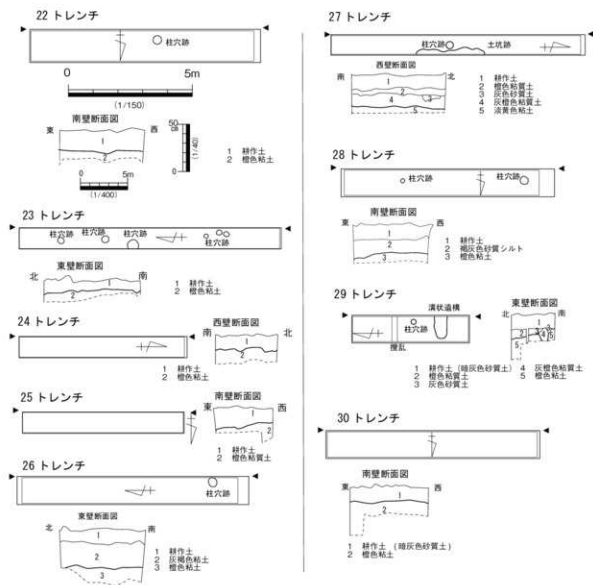


図 26 22～30 トレンチ

市道の南側の宅地跡に2か所のトレンチ (35・36 トレンチ) を設定した。31 トレンチでは1条の溝状遺構が検出された。33 トレンチでは1条の溝状遺構と1個の柱穴跡が検出された。これらの遺構からの出土遺物は確認していないが、包含層から須恵器片が出土していることから、遺構の時期は古墳時代から古代に属すると考えられる。32～36 トレンチでは遺構は検出されなかった。

#### まとめ

以上の調査結果から、図 19・22・25・27 に示す協議対象地のうち、A 地区では北部の 1.546mi の範囲については「沖遺跡」、南部の 1.473mi の範囲については「沖南遺跡」(12 トレンチを設定した区画の 277mi は遺構面 2 面)、B 地区では 1.575mi の範囲については「岡遠田遺跡」として事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。C 地区では北部の 448mi は周辺のトレンチの調査結果を踏まえ、「岡遠田遺跡」として保護措置が必要と判断した。また、そのほかの C 地区の 4.846mi の範囲については「岡遠田南遺跡」として、D 地区の 896mi の範囲については「岡田東下土居遺跡」として保護措置が必要と判断した。

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
31	1.2 × 6.0	溝状遺構 1	なし	耕作土の下には上から順に灰褐色砂質土 (厚さ 0.15 m)、橙灰色粘質土 (厚さ 0.05 m)、橙色粘質土が堆積する。橙色粘質土上面で遺構を検出した。
32	1.2 × 10.0	なし	なし	耕作土の下には橙色粘質土が堆積する。
33	1.5 × 5.0	溝状遺構 1、 柱穴跡 1	須恵器片 1	耕作土の下には淡橙色砂質土、その下には橙色粘質土が堆積する。橙色粘質土上面で遺構を検出した。淡橙色砂質土から須恵器片が出土したことから、遺構は古墳時代～古代に属する可能性が高い。
34	1.2 × 9.0	なし	土器片 3	耕作土の下には橙色粘質土が堆積する。耕作土中から遺物が出土した。
35	2.0 × 7.0	なし	なし	宅地跡地。現地表から深さ 0.5 ～ 0.7 m までコンクリート基礎・造成土・田耕作土が堆積する。その下には上から順に灰色砂質土 (厚さ 0.1 m)、灰褐色粘質土 (厚さ 0.1 m)、橙色粘質土 (厚さ 0.05 m)、灰橙色粘質土 (厚さ 0.1 m)、橙色粘土が堆積する。
36	2.0 × 5.0	なし	なし	宅地跡地。現地表から深さ 0.6 m までコンクリート基礎・造成土・田耕作土が堆積する。その下には上から順に淡灰色砂質土 (厚さ 0.05 m)、灰褐色粘質土 (厚さ 0.1 m)、橙灰色粘質土 (厚さ 0.1 m)、橙色粘土が堆積する。

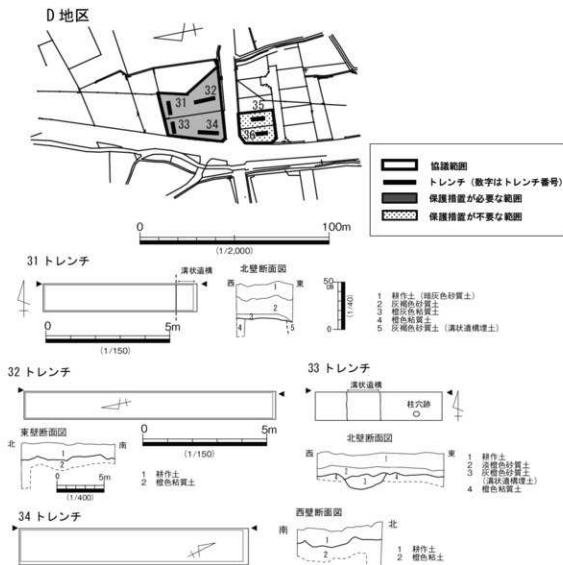


図 27 トレンチ位置図と取扱い図 31～34 トレンチ



写真 48 1 トレンチ 南から



写真 49 3 トレンチ 東から



写真 50 6 トレンチ 北から



写真 51 7 トレンチ 北から



写真 52 8 トレンチ 北から



写真 53 9 トレンチ 東から



写真 54 10 トレンチ 東から



写真 55 10 トレンチ 土層① SD01 断面 南から



写真 56 11 トレンチ柱穴群検出状況 北東から



写真 57 12 トレンチ土層①SR01断面 西から



写真 58 13 トレンチ全景 北から



写真 59 15 トレンチ西部遺構検出状況 西から



写真 60 20 トレンチ遺構検出状況 北から



写真 61 21 トレンチ 北から



写真 62 23 トレンチ遺構検出状況 西から



写真 63 26 トレンチ 北西から



写真 64 28 トレンチ 北東から



写真 65 29 トレンチ 北西から



写真 66 31 トレンチ 南東から



写真 67 33 トレンチ 南西から

### 第3章 県事業予定地内の調査

#### (1) はじめに

県営農政事業を除いて県事業として試掘調査を実施したものととして、以下の事業がある。

#### (2) 調査の概要

##### 笠田高校校舎改築

##### 対象地の状況

対象地は三豊市豊中町笠田に所在し、西から延びる段丘に立地する。協議範囲の南西 50 m には周知の埋蔵文化財包蔵地「笠田竹田遺跡」がある。

##### (調査の結果)

現在の本校舎の南の中庭に 5 本のトレンチを設定した。最東部の 1 トレンチではトレンチ南部で 1 基の遺構が検出された。遺構埋土から弥生土器と考えられる少量の土器片とサヌカイト製石鉄片が出土したことから、遺構は弥生時代に属すると考えられる。そのほか包含層から須

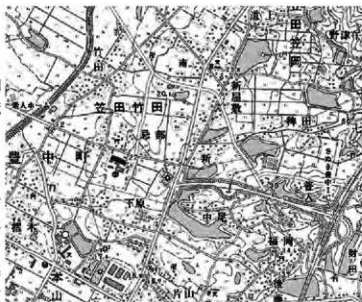


図 28 調査地位置図 国土地理院地形図 1/25,000 の一部に加筆

恵器片・土器片・白磁片が少量出土した。1トレンチ西方の2～5トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。造成土が0.3～0.6mと厚く堆積しており、学校建設の造成に伴って削平された可能性が高い。

#### まとめ

以上の調査結果から、図28に示す協議対象地のうち、2トレンチより東の450mについては「笠田竹田遺跡」として事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。

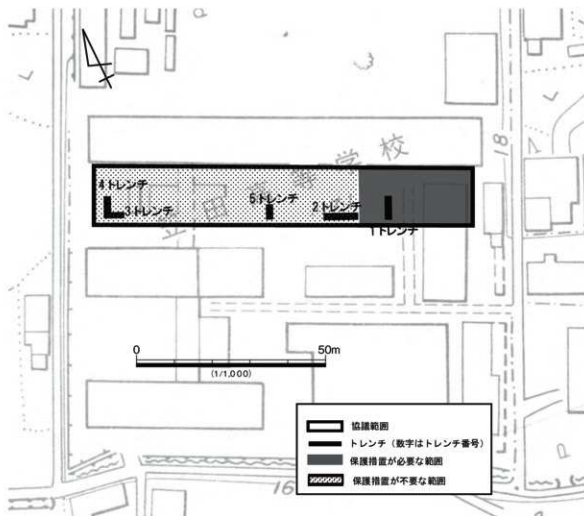


図29 トレンチ位置図と取扱い図 豊中町都市計画図 1/2,500の一部に採録

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	1.1 × 5.6	遺構 1	土器片 18、 須恵器片 1、 白磁片 2、 石炭片 1	表土の下には厚さ0.1～0.2mの造成土が堆積する。トレンチ南部では造成土下で堅穴建物跡と考えられる遺構を検出した。北部は擾乱が深く、遺構は検出されなかった。
2	1.2 × 6.7	なし	なし	表土の下には厚さ0.3mの造成土、その下には橙色粘土が堆積する。
3	1.2 × 6.0	なし	なし	表土の下には厚さ0.4～0.6mの造成土、その下には橙色粘土が堆積する。
4	1.2 × 5.5	なし	なし	表土の下には厚さ0.4～0.6mの造成土・擾乱、その下には橙色粘土が堆積する。
5	1.1 × 3.5	なし	なし	表土の下には厚さ0.3mの造成土、その下には橙色粘土が堆積する。

1 トレンチ

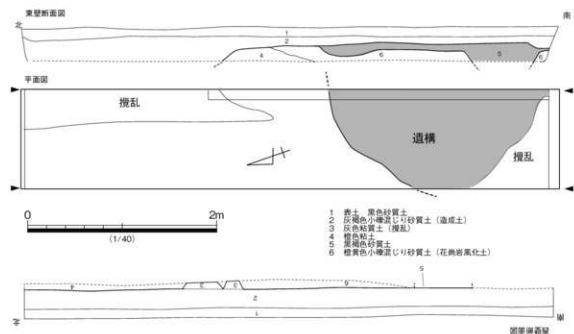


図30 1 トレンチ



写真68 1 トレンチ 南西から



写真69 2 トレンチ 東から



写真70 4 トレンチ 南東から



写真71 5 トレンチ 北から



## 第4章 県営農政事業予定地内の調査

### (1) はじめに

県営農政事業に伴う埋蔵文化財の保護については、主に大規模な事業面積が計画された県営ほ場整備事業やため池等整備事業を対象としている。試掘調査では埋蔵文化財包蔵地が確認された場合は、事業者に対して、盛土等設計・施工変更による現状保存を要請・協議している。なお、現地保存が不可能な場合に限り、事業地が所在する市・町教育委員会が事前の発掘調査を実施する方向で協議・調整を行っている。今年度は以下の3事業において、試掘調査を実施した。

### (2) 調査の概要

#### 中山間地域総合整備事業（まんのう地区）

##### 対象地の状況

対象地はまんのう町佐文に所在し、丘陵裾の緩やかな傾斜地に立地する田畑である。周辺には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていない。令和2年4月に対象地の西部（Aブロック）、令和2年12月に対象地の中央部から東部（B～Dブロック）を対象に、事業によって削平される田畑にトレンチを設定して試掘調査を行った。

##### 調査の概要

Aブロックの田畑は南から北に向かって階段状に下がる。10か所のトレンチ（1～10トレンチ）を設定した。いずれも耕作土の下に砂質シルト・細砂・粗砂が堆積し、その下には橙色粘土・粘質シルト（現地表下0.9～1.2m）が堆積する。砂質シルトなどから中世後半の土師質土器土釜片などの土器片が出土したが、遺構は検出されなかった。これらの遺物は協議範囲よりも標高の高い場所から土砂とともに運ばれた可能性が高い。

Bブロックの田畑も南から北に向かって階段状に下がる。9か所のトレンチ（11～19トレンチ）を設定した。11トレンチでは柱穴跡2個が検出された。包含層から黒色土器片が出土したことから、中世に属すると考えられる。11トレンチとは田畑の畦畔をはさんで南に設定した14トレンチでは溝状遺構2条が検出された。包含層からの出土遺物から中世に属すると考えられ



図31 調査地位置図 国土地理院地形図 1/25,000の一部に加筆

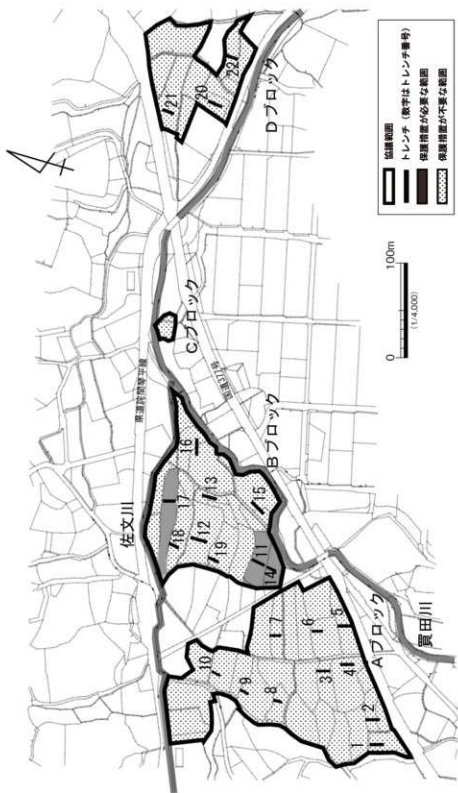


図 32 トレンチ位置図と数扱い図

番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	1.2 × 120	なし	土器片 1	耕作土・床土の下に厚さ 0.4 ~ 0.5 m の砂質シルト・細砂、その下には橙色粘土が堆積する。耕作土直下の黄褐色小礫混じり細砂層から土器片が 1 点出土した。
2	1.2 × 120	なし	なし	耕作土の下に厚さ 0.4 ~ 0.5 m の細砂、その下には明黄褐色粘土が堆積する。
3	1.2 × 145	なし	土器片 1・須恵器片 2	耕作土の下に厚さ 0.8 m の砂質シルト・粗砂、その下には明黄褐色粘土が堆積する。耕作土から須恵器片が 1 点、砂質シルトからは土器片 1 点・須恵器片 1 点出土した。
4	1.2 × 100	なし	須恵器片 1・土器片 2	耕作土の下に厚さ 0.8 m の小礫混じり細砂・砂質シルト・粘土・粗砂、その下には黄褐色砂質シルトが堆積する。耕作土下 0.2 ~ 0.3 m の褐灰色小礫混じり砂質シルト・灰黄褐色小礫混じり粘土から須恵器・土器片が 3 点出土した。
5	1.2 × 100	なし	土師質土器土釜片 (中世後半) 1・土器片 6・須恵器片 1	耕作土の下に厚さ 1.1 m の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルト、その下には明黄褐色砂質シルトが堆積する。耕作土下 0.6 m の暗褐色小礫混じり砂質シルトから土器片が 10 点程度出土した。
6	1.2 × 100	なし	土器片 2	耕作土の下に厚さ 0.7 m の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルト、その下には灰色粘質シルトが堆積する。耕作土下 0.4 m の褐灰色小礫混じり砂質シルトから土器片が 2 点出土した。
7	1.2 × 83	なし	土器片 1	耕作土の下に厚さ 0.7 m の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルト、その下には灰色粘質シルトが堆積する。耕作土下 0.3 m の灰黄色小礫混じり砂質シルト細砂から土器片が 1 点出土した。
8	1.2 × 88	なし	なし	耕作土の下に厚さ 0.6 m 以上の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルトが堆積する。
9	1.2 × 89	なし	なし	耕作土の下に厚さ 0.7 m 以上の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルトが堆積する。
10	1.2 × 98	なし	近世陶器片 1	耕作土の下に厚さ 0.6 m の小礫混じり粗砂・細砂・砂質シルト、その下には褐灰色粘質シルトが堆積する。耕作土から近世陶器片 1 点が出土した。
11	1.0 × 104	柱状跡 2	黒色土器碗底部片 1・土器片 7	耕作土の下に淡橙色小礫混じり細砂 (厚さ 0.1 m) が水平に堆積し、さらにその下には南部では灰褐色小礫・細砂混じり砂質シルト (厚さ 0.3 m)、褐灰色小礫混じり粗砂 (厚さ 0.5 m 以上) が堆積する。これらの土層は北に向かって下がる。北部では淡橙色小礫混じり細砂の下に灰黄色砂質シルト (厚さ 0.05 m)、黄色砂質土 (厚さ 0.1 ~ 0.15 m)、暗褐色小礫混じり砂質シルト (厚さ 0.1 ~ 0.2 m) が堆積する。暗褐色小礫混じり砂質シルトから黒色土器碗底部片・土器片が出土した。北部では灰褐色小礫混じり砂質シルトの上面で柱状跡 2 個を検出した。
12	1.0 × 91	なし	土器片 1	耕作土の下に厚さ 1.2 m の砂質シルト・細砂・粗砂、その下には暗褐色粘土が堆積する。耕作土中から土器片が 1 点出土した。
13	1.0 × 106	なし	なし	耕作土の下に砂質土が 1.1 m 以上堆積する。
14	1.0 × 92	溝状遺構 2	黒色土器碗片 1・土器片 1	11 トレンチとは畦畔を挟んで南に位置するトレンチである。耕作土の下に 11 トレンチで検出した土層と類似する暗褐色砂質シルト (厚さ 0.1 ~ 0.15 m) が堆積し、さらにその下には上から順に灰白色小礫・大礫混じり砂質シルト (厚さ 0.2 m)、黄褐色大礫混じり砂質シルトが堆積する。灰白色小礫混じり砂質シルトの上面では 2 条の溝状遺構が検出された。いずれも東西方向に走る。暗褐色砂質シルトからは黒色土器碗片と土器片が出土した。
15	1.0 × 75	なし	なし	耕作土の下に厚さ 0.9 m の礫混じり砂質シルト、その下に灰褐色粘土が堆積する。
16	1.0 × 45	なし	なし	現地表下 0.6 ~ 0.9 m まで耕作土・造成土、その下には橙赤色小礫・大礫混じり粘質土が堆積する。
17	1.0 × 85	溝状遺構 1	なし	耕作土の下に橙色小礫混じり砂質シルト (厚さ 0.05 m)、黄灰色小礫混じり砂質シルト (厚さ 0.15 m)、黒褐色粘土 (厚さ 0.2 m)、黄色粘土が堆積する。黄灰色小礫混じり砂質シルトの上面で溝状遺構を検出した。
18	1.0 × 33	なし	なし	現地表下 0.5 ~ 0.7 m まで耕作土・造成土、その下には小礫・細砂混じり砂質シルト (厚さ 0.15 m)、暗灰色粘土 (厚さ 0.15 m)、青褐色粘土が堆積する。
19	1.0 × 31	なし	なし	耕作土の下に砂質シルト・小礫混じり細砂・大礫混じり粗砂が 0.9 m 以上堆積する。
20	1.0 × 118	なし	須恵器片 1・土器片 2	耕作土の下に砂質シルト・細砂 (厚さ 0.25 ~ 0.35 m)、その下に花崗岩風化土が堆積する。耕作土直下の橙褐色砂質シルトから須恵器片と土器片が出土した。
21	1.0 × 7.0	なし	なし	現地表下 1.1 ~ 1.2 m まで耕作土・造成土・田耕作土、その下には砂質シルトが 0.4 m 以上堆積する。
22	1.0 × 8.3	なし	近世陶器片 1	現地表下 0.3 ~ 0.4 m まで耕作土・造成土、その下には橙褐色粘質シルト (厚さ 0.1 m)、厚さ 0.4 m の砂質シルト・細砂・粗砂、さらにその下には暗灰色粘土が堆積する。耕作土から近世陶器片が出土した。

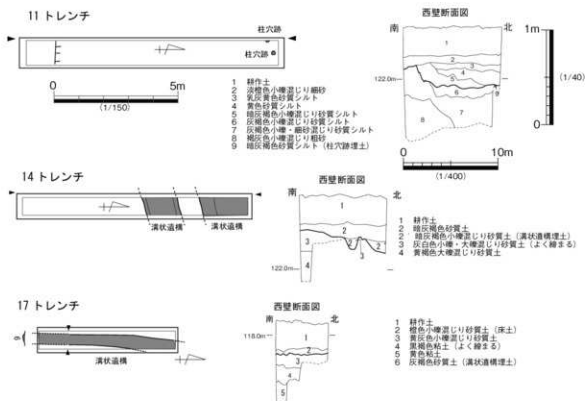


図 33 11・14・17 トレンチ



写真 72 2 トレンチ 北から



写真 73 3 トレンチ 北東から



写真 74 4 トレンチ 南東から



写真 75 5 トレンチ 南西から



写真 76 7 トレンチ全景 北西から



写真 77 12 トレンチ 南から



写真 78 11 トレンチ柱穴跡検出状況 東から



写真 79 13 トレンチ 北東から



写真 80 14 トレンチ 南から



写真 81 16 トレンチ 北西から



写真 82 17 トレンチ溝状遺構検出状況 北から



写真 83 21 トレンチ 北から

る。17トレンチでは溝状遺構1条が検出された。遺物が出土していないため、時期は不明である。12・13・15・16・18・19トレンチでは遺構は確認されなかった。

Dブロックの田畑は北から南に向かって階段状に下がる。3か所のトレンチ(20～21トレンチ)を設定した。いずれのトレンチでも遺構は検出されなかった。

#### まとめ

以上の調査結果から、図32に示す協議対象地のうち、11・14・17トレンチを設定した田畑3,252㎡を「佐文中筋遺跡」として事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断した。

### 経営体育成基盤整備事業(羽床下地区)

#### 対象地の状況

対象地は綾歌郡綾川町羽床下に所在し、二級河川綾川の西岸の平地に立地する。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。対象地の東・南・西の三方の境界は隣接する田畑よりも0.5～0.8mほど低く、河川の氾濫原に当たることが想定された。だが、事業面積が広大であることから、事業によって削平される田畑に試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を調査した。



図34 調査地位置図 国土地理院地形図1/25,000の一部に加筆

#### 調査の概要

8本のトレンチを設定した。いずれのトレンチでも遺構は確認されず、耕作土の下には粘質土・砂質土・細砂～粗砂が堆積しており、この付近は河川の氾濫原であることが確認された。また、地形の状況と東部の試掘調査の結果から、試掘トレンチを設定していない対象地の西部も含めた全域が河川の氾濫原に

番号	規模(m)	遺構	遺物	所見
1	10×81	なし	土器片4	耕作土の下には灰褐色小礫混じり砂質土(厚さ0.3m)、橙色粘質土(厚さ0.1m)、灰褐色粘質土(厚さ0.3m)、その下には厚さ0.6m以上細砂がほぼ水平に堆積する。耕作土下0.5mの灰褐色粘質土から土器片が出土した。
2	10×80	なし	土器片2、陶器大 集底部片(近世)1	耕作土の下には橙色小礫混じり砂質土(厚さ0.2m)、灰褐色細砂混じり砂質土(厚さ0.4m)、その下には厚さ0.6m以上小礫混じり細砂～粗砂・砂質シルト・細砂がほぼ水平に堆積する。耕作土下0.4mの灰褐色細砂混じり砂質土から土器片と近世の陶器片が出土した。
3	10×57	なし	なし	耕作土の下には小礫混じり砂質土・砂質土・粘質土・細砂(厚さ1.0m)が堆積し、その下には粗砂が厚さ0.5m以上堆積する。
4	10×100	なし	土器片1、近世陶 器碗口縁部片1	耕作土の下には灰褐色粘質土(厚さ0.1m)、黄色砂質土(厚さ0.1m)、灰色砂質土(厚さ0.15～0.2m)、褐色粘質土・小礫混じり細砂(厚さ0.2～0.3m)、その下には細砂(厚さ0.4m)、粗砂(厚さ0.6m以上)が堆積する。耕作土下0.4mの褐色粘質土・砂質土混じり細砂から土器片・近世陶器片が出土した。
5	10×80	なし	なし	耕作土の下には小礫混じり砂質土・細砂が1.4m以上堆積する。
6	10×61	なし	土器片1・土師 質土器小皿底部 片(中世)1	耕作土の下には砂質土・細砂(厚さ0.5m)、その下には小礫混じり粗砂が厚さ1.4m以上堆積する。耕作土下1m付近の孔灰色小礫混じり粗砂からは土器片・中世土師質土器小皿片が出土した。
7	10×84	なし	土器片1(中世ま たは近世)・陶器 片1(近世備前焼)	耕作土の下には上から順に灰色砂質土(厚さ0.1m)、橙色砂質土(厚さ0.05m)、灰褐色小礫混じり砂質土(厚さ0.1m)、その下には小礫混じり細砂・粗砂(厚さ0.8m以上)がほぼ水平に堆積する。耕作土下0.4mの灰褐色小礫混じり砂質土から中世または近世に属すると思われる土器片1と近世の備前焼と考えられる陶器片1が出土した。
8	10×80	なし	なし	耕作土の下には砂質土・細砂・小礫混じり粗砂が厚さ1.2m以上堆積する

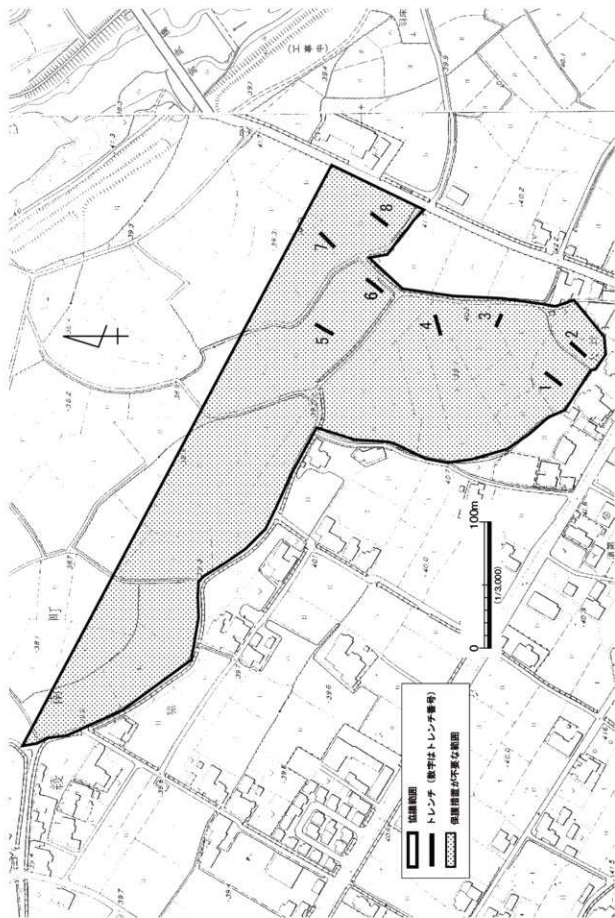


図 35 トレンチ位置図と取扱い図 綾瀬町都市計画図 1/2,500 の一部に加筆





写真 84 1 トレンチ 南東から



写真 85 4 トレンチ土層 南西から



写真 86 6 トレンチ 南東から



写真 87 8 トレンチ 北西から

相当すると考えられる。また、現地表下 0.4 ~ 1.0 m の砂質土・細砂層中から中世及び近世の土師質土器・陶器が出土したことから、この付近では江戸時代まで河川が氾濫していたと考えられる。

#### まとめ

以上の調査結果から、図 35 に示す協議対象地は全域が河川の氾濫原であり、事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が不要と判断した。

### 経営体育成基盤整備事業（田中北部地区）

#### 対象地の状況

対象地は木田郡三木町田中に所在し、2つの低丘陵に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地「南天枝遺跡」・「四十塚古墳」に隣接する。北の低丘陵の頂部はほぼ平坦で、頂部の北部及び東部の丘陵裾部には居宅、頂部の中央部から西部には畑地や墓地在存在し、南部には竹やぶが広がっている。

南の低丘陵の頂部もほぼ平坦で、墓地在存在する。ほ場整備事業に伴い、削平される範囲に試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。



図 36 調査地位置図 国土地理院地形図 1/25,000 の一部に加筆



番号	規模 (m)	遺構	遺物	所見
1	1.0 × 5.0	なし	陶器 1 (近代)、磁器片 (近代) 2、土器片 7	北の丘陵頂部の畑に設定したトレンチ。耕作土の下には灰褐色砂質土 (厚さ 0.15 m)、橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。耕作土から近世後半から近代の陶器片・磁器片、灰褐色砂質土からは時期不明の土器細片 7 点が出土した。
2	1.0 × 5.0	なし	土師質土器片 1 (近世～近代)、土器片 9 (時期不明)	北の丘陵頂部の畑に設定したトレンチ。現地表下 06～09 m まで耕作土・造成土、その下には褐黄色粘質土 (花崗岩風化土) が堆積する。造成土から近世～近代の土師質土器片、土器片が出土した。
3	1.0 × 2.5	なし	なし	南の丘陵頂部に設定したトレンチ。表土の下には南部では灰褐色砂質土 (厚さ 0.2 m)、黄色粘土 (花崗岩風化土)、北部では表土の下に黄色粘土 (花崗岩風化土) が堆積する。
4	1.0 × 11.0	なし	なし	南の丘陵の南から北に下がる尾根上に設定したトレンチ。表土の下には灰黄色小礫混じり砂質土 (厚さ 0.2 m)、橙色砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
5	1.0 × 13.5	なし	なし	南の丘陵頂部に設定したトレンチ。表土の下には橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
6	1.0 × 8.0	なし	なし	南の丘陵の頂部から東斜面にかけて設定したトレンチ。表土の下には灰黄色砂質土 (厚さ 0.2 m)、橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
7-1	1.0 × 11.0	土坑跡 (明治～大正時代)	磁器碗 (明治～大正時代)	北の丘陵の頂部に設定したトレンチ。耕作土の下に、北部では灰黄色砂質土 (厚さ 0.1～0.2 m)、橙色粘質土 (花崗岩風化土) が堆積する。南部では耕作土の下に橙色粘質土 (花崗岩風化土) が堆積する。トレンチ南西隅の同層の上面で、明治時代から大正時代の土坑跡を検出した。
7-2	1.0 × 9.5	なし	なし	北の丘陵の頂部に設定したトレンチ。耕作土下に灰黄色砂質土 (厚さ 0.1～0.2 m)、橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
8-1	1.0 × 11.5	なし	なし	北の丘陵の頂部に設定したトレンチ。耕作土、の下に灰黄色砂質土、橙色粘質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
8-2	1.0 × 14.0	柱穴跡 1 (明治～大正時代)	磁器碗片 1 (明治～大正時代)	北の丘陵の頂部に設定したトレンチ。中央部から北部では耕作土の下に灰黄色砂質土 (厚さ 0.2～0.4 m)、さらにその下には橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。南部では耕作土の下に橙色小礫混じり砂質土 (花崗岩風化土) が堆積する。中央やや北より明治時代から大正時代の柱穴跡が検出された。埋土から磁器碗片が出土した。
9	1.0 × 5.0	なし	なし	北の丘陵の西斜面の畑に設定したトレンチ。耕作土の下には暗灰色ブロック混じり灰黄色砂質土 (厚さ 0.1 m)、橙色粘土 (花崗岩風化土) が堆積する。
10	1.0 × 15.0	なし	なし	北の丘陵の西斜面の畑に設定したトレンチ。耕作土の下には灰黄色砂質土、橙色粘質土 (花崗岩風化土) が堆積する。
11	1.0 × 4.0	なし	なし	北の丘陵頂部から南に下がった平坦地に設定したトレンチ。表土の下には灰黄色砂質シルト (厚さ 0.1 m)、橙色粘土 (花崗岩風化土) が堆積する。

### 調査の概要

北の丘陵の頂部には広い平坦地があり、畑や墓地として利用されている。また、昭和時代初期ごろまで 3 軒の居宅が存在したことが伝えられる。頂部及び頂部よりやや下がった田畑に 9 か所のトレンチ (1・2・7-1・7-2・8-1・8-2・9～11 トレンチ) を設定した。1・2・7-1・8-2 トレンチでは江戸時代末から明治・大正時代の陶磁器が出土した。江戸時代末から昭和初期にかけて存在した居宅に伴うものであろう。1・2 トレンチから土器片 (時期不明) が出土し、須恵器片も表採されているが、地宅や畑の造成工事によって遺構は削平されたと考えられる。なお、10 トレンチの南方から 11 トレンチの南方にかけては竹やぶが広がっているため、試掘トレンチの設定が不可能であった。

南の丘陵は頂部に 4 か所のトレンチ (3～6 トレンチ) を設定した。いずれのトレンチも遺構・遺物は確認されなかった。

### まとめ

以上の調査結果から、図 37 に示す協議対象地は事業実施に先立ち文化財保護法に基づく保護措置が不要と判断した。



図 37 トレンチ位置図と取扱い図 三木町都市計画図 1/2,500 を使用しました



写真 88 3 トレンチ 南から



写真 89 4 トレンチ 南から



写真 90 5 トレンチ 東から



写真 91 7-1 トレンチ 北から



写真 92 7-2 トレンチ 北西から



写真 93 8-2 トレンチ 北から



写真 94 9 トレンチ 南から



写真 95 10 トレンチ 北から

## 報告書抄録

ふりがな	まいごうぶんかざいしくつちょうさほうこく 33
書名	埋蔵文化財試掘調査報告 33
副書名	令和2年度 香川県内遺跡発掘調査
編著者名	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 電話 0877-48-2191
発行機関名	香川県教育委員会
発行年月日	令和4（2022）年1月21日

所収道路名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	道路番号					
城泉遺跡	東かがわ市白鳥	373072		34° 23' 97"	134° 35' 42"	2020.5.19 - 20	36.5	国道11号大内白鳥バイパス建設
城泉東遺跡	東かがわ市白鳥	373072		34° 23' 96"	134° 35' 46"	2020.5.19 - 20	7.7	国道11号大内白鳥バイパス建設
赤坂古墳群	東かがわ市帰来	373072		34° 23' 78"	134° 36' 01"	2020.8.3	0	国道11号大内白鳥バイパス建設
中山北遺跡	東かがわ市中山	373072		34° 25' 33"	134° 29' 31"	2020.4.24, 2020.12.4	88.2	国道11号大内白鳥バイパス建設
小砂大木遺跡	東かがわ市小砂	373072		34° 25' 91"	134° 29' 32"	2020.9.16 ~ 18	28.5	国道11号大内白鳥バイパス建設
樋ノ口遺跡	観音寺市本大町	373056		34° 13' 44"	133° 69' 48"	2020.7.20 ~ 22・27	30.5	国道11号壺中観音寺拡幅
沖遺跡	丸亀市厳山町上法華寺	373021		34° 24' 73"	133° 85' 60"	2020.10.12・15・16	65.5	国道438号(厳山工区)道路整備
沖南遺跡	丸亀市厳山町上法華寺	373021		34° 24' 60"	133° 85' 62"	2021.1.28・29	59.2	国道438号(厳山工区)道路整備
岡道田遺跡	丸亀市厳山町上法華寺	373021		34° 24' 14"	133° 85' 67"	2020.4.15 2020.10.12・15・16	61.2	国道438号(厳山工区)道路整備
岡道田南遺跡	丸亀市厳山町上法華寺	373021		34° 23' 82"	133° 85' 78"	2020.10.12・15・16	130.3	国道438号(厳山工区)道路整備
岡田東下土居遺跡	丸亀市綾歌町岡田東	373021		34° 23' 22"	133° 85' 70"	2020.10.13・14	37.5	国道438号(綾歌工区)道路整備
笠田竹田遺跡	三豊市豊中町笠田	373081		34° 15' 21"	133° 60' 99"	2020.11.6	6.2	笠田高校校舎改築
佐文中筋遺跡	仲多度郡まんのう町佐文	374067		34° 17' 04"	133° 80' 84"	2020.12.8 ~ 10	28.1	中山岡地域総合整備(まんのう地区)

埋蔵文化財試掘調査報告 33  
 令和2年度 香川県内遺跡発掘調査  
 令和4年1月  
 発行 香川県教育委員会  
 編集 香川県埋蔵文化財センター  
 住所 香川県坂出市府中町字南谷5001-4  
 電話 0877-48-2191  
 印刷 株式会社 成光社